

動媒体として有機媒体を用いた方式)で作動媒体にオゾン係数がゼロで環境負荷が少ない不燃性不活性ガスのHFC 245fa(電気事業法における小型バイナリー発電の規制緩和の対象媒体)を使う。1分間当たり、一般的なバスタブ程度の190ℓの温水で発電することから、温水量が少ない温泉地や中小の工場での普及型発電装置として拡販を目指すという。

時事コラム

リッチモアインターナショナル

排ガス分析計「VROOM」を発売

米の高性能水分計・ガス分析装置タイガーオプティクス(販売代理店リッチモアインターナショナル(東京都港区白金台、櫻井順子社長))は、タイガーの新たな戦略分野の1つである自動車の排ガス測定のためのガス分析計を近日発売する。

新製品の製品名は「VROOM(ブルーン)」。エンジンを吹かす音をそのまま製品名とし、昨年10月にデトロイトで開催された北米自動車試験EXPOで初披露した。



排ガス分析の「VROOM」

半導体分野の高精度測定で評価を得るガス測定原理キャピタリーリングダウン分光法(CRDS)方式の応答性をさらに速め、1つのキャピタリーにマルチ成分対応の新たなミラーを採用することで同時に最大4種のガス測定を可能とした。主として低濃度のエンジン排気を対象としており、まずはCO(測定下限値140ppb)、CO₂(同220ppb)、CH₄(同2ppb)、H₂O(同170ppb)の4成分分析用を発売、NO_x等測定用は現在開発中とする。

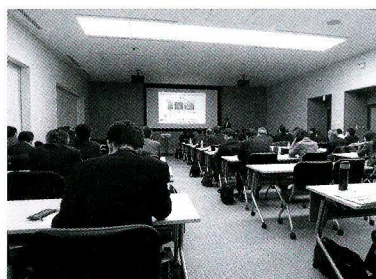
米・タイガーオプティクスは、世界的な排ガス規制強化や、米国環境保護庁(EPA)の連続排出に関する新基準策定の動きを睨み、政府系の規制基準制定機関、標準機関、試験機関等に向け積極展開する。自動車、トラック、船舶、航空等のエンジンメーカーをメインターゲットとするが、FCの水素分析、高純度ガス

の品質管理用、環境分野のモニタリング等にも適していることから、ラボ、ガス化学マーケットにもアピールする。

産総研・温度湿度クラブ

液化ガス流量計評価を報告

温度湿度の計測に関わる企業等の情報交換の場として年に2回の講演会を企画している産総研・温度湿度クラブは2月7日に第14回講演会を東京都江東区青海の産総研臨界副都心センターで開催した。今回も「自動車における温度湿度計測の重要性」(日立オートモティブシステムズ)、「高圧水素の熱物性測定における温度測定」(九州大学)、「液化ガス流量計測における低温度計測」(産総研)と、興味深い3題が用意され120名を超える精密計測機器メーカー等のクラブ会員などが熱心に聴講、質疑応答も行われた。



温度湿度クラブ講演会場

産総研計測標準研究部門、森岡敏博氏は、岩谷産業の協力を得て進めている液化ガス用流量計の評価について発表。『液化ガス流量計評価装置』を紹介した。試験媒体にLN₂を使用するケースでは元のLGCからLN₂を押し出す際ヘリウムガスで液面加圧をする(LN₂温度で液化しない)など工夫している。液化ガスは少しの温度上昇でガスに転じ圧力変動が起るため常に液相を保つ工夫が随所に必要。一定の差圧を作って流量を一定に制御するのが難しく、精密な圧力制御装置やマスフローコントローラが、それに液相

用温度センサーによる温度監視が不可欠である。同評価装置を使って浮き子式や汎用コリオリ式の流量計を評価した例などが報告された。森岡氏は、FCVの普及と元年を目前に控え、液化ガス輸送や計測の機会は増えると思われるが、せっかく効率よく運べる液化ガス輸送でもトラブルスケール(台費)まで移動したり、そもそも計量の精度が不十分では経済性や合理性に欠ける。低温の液化エネルギーガス、極低温の産業ガス計測における温度や圧力、そして流量計測の信頼性の検証が必要であると訴えた。

**ぶるん「VROOM」という名前の
排ガス測定用 多成分ガスアナライザー**

自動車エンジンの排ガス分析に高精度のCW-CRDS方式を採用。CO、CO₂、メタン、水分の最大4種のガスを同時に測定することが可能です。応答性の高さやキャリブレーション不要、測定精度の信頼性から、お持ちの分析計校正用、標準器としても使えます。

※VROOMとは…エンジン音の英語の擬音語

RMI 株式会社リッチモアインターナショナル

〒108-0071 東京都港区白金台5-3-6 白金台セントラルビル4F
Tel: 03-3440-0027 Fax: 03-3440-0127
http://www.richmore.co.jp/ e-mail: inquiry@richmore.co.jp